

—特集【臨床研究をはじめてみよう！(1)】—

『臨床研究をはじめてみよう！』の
特集にあたって

松田 明久

日本医科大学消化器外科

『臨床研究』という言葉から何を思い浮かべるでしょうか？昨今のCOVID-19感染症の影響でプラセボ、エビデンス、RCTなどのこれまで一般の方が触れることが無かった臨床研究に関するワードをよく耳にするようになり、臨床研究の必要性・重要性が奇しくも広く認知される様になりました。臨床研究の定義に立ち返ってみると、平成15年に厚生労働書が定めた『臨床研究に関する倫理指針』によると、臨床研究とは『医療における疾病の予防方法、診断方法及び治療方法の改善、疾病原因および病態の理解並びに患者の生活の質の向上を目的として実施される医学系研究であって、人を対象とするもの』とされ、最善であると認められた予防方法、診断方法及び治療方法であっても、その有効性、効率性、利便性及び質に関する臨床研究を通じて、絶えず再検証されなければならない、と記述されています。すなわち、毎日の臨床の現場で遭遇する疾病、その病態におけるClinical Questionに対するAnswerは、永続的なものは一つもなく、その時代や社会情勢そして医学の進歩に伴い変化しうるものであり、医療人として常に臨床研究の歩みを止めてはならないということです。

しかし、医療人とくにアカデミアで働く者として、その責務とされる臨床・教育・研究のうち、研究が最もハードルが高いと感じている方が多いのも事実でしょう。臨床研究を行い学会発表、医学論文を執筆するという行為は、医学の発展に貢献するというのが究極の目的だと思いますが、誰もがいきなりその高みに

すぐに到達できる訳ではありません。どんなに優れた研究者もスピードの違いはあれど、一段一段階段を登って現在の位置にたどり着いている筈です。また、臨床研究を行うにあたり重要な要素として、知識、アイデアはもちろんのこと、環境、そして苦楽を共に味わえる仲間の存在も個人的には重要だと思います。本学には質・量ともに充足した臨床、研究環境が備わりつつ、borderlessかつ相談しやすい数多くの研究者、諸先輩方が在籍しています。それらを有効に利用しない手はありません。自分の経験からも言えるのですが、臨床研究に興味を抱き、解決したいClinical Questionを頭の片隅にでも置いてこの素晴らしい環境で日々を過ごしていると、思いもしない場所・人・状況からヒントを得ることができます。要は『心がけ一つ』ということですね。臨床研究は重い腰を上げないとできないものではないのです。

本特集では、主に臨床研究を始めてみたいと思っているが、何から手を付けたらいいか分からない初学者を対象に、臨床研究を行うにあたり知っておくべき重要なポイントを各領域のエキスパートの先生方に分かりやすく解説して頂きました。いずれの領域も一見するととっつきにくいと感じるかもしれませんが、本稿を読んで頂ければこれまで臨床研究に対して持っていた疑問（疑念？）が解決すると思います。

是非、多くの方々に本特集号を手にとって頂き、臨床研究の楽しさを感じ、実行に移して貰えれば幸いです。